

2-1-68

157
5
1911

通俗衛生演說集

大日本通俗衛生會

通俗衛生演説集

人身測定の必要を論ず

會員 佐藤

保登稿

抑も吾人々類の此社會に生れ出づるや即ち爰に學問あり宇宙の事物万般の理を究め
 以て利用厚生之法を立つ之を立つる其學種々あり之を聞て聞き盡し得ず之を見
 盡と能はず究めて而して後其理愈々深く研いて而して後其道愈々廣し所謂之れを切
 れば愈々固く之を穿てば愈々剛ある者あり既よ之を究めて尙ほ益々深く之を研いて
 尙ほ益々廣しとすれば其學の容易に知り盡す可からざるや明かにして如かも其不完
 全たるを察するに足れり即ち僅々たる一の醫學ですら日々に新たに亦た日々に新に
 にして昨日の新説と云へども今日は腐説と化し新説又新説、新の新たる所以殆ど解
 を可からずダーウソフン先生の動物進化論豈獨り進化とる者たらんや社會の事物一に
 皆然らざるは勿かるべし左れを予は爰に唯一つ永久渝らず古にあるも今に在るも二

二
々が四にして二四、八、八より二を引けば六と爲り又四を引けば二と爲るの學問英語
に譯してマテマチック即ち數學の一學こそ果して變らざる可きを思ふ即ち諸般の學
問は不完全にして絶えず進化すと雖も獨り今古の大法動かす可からざる者は夫れ將
た數學ある乎、尤も數學とても古今に通じて進化を現するとあきらかに非ず然れども
其所謂進化するは敢て數學の理に非ずして數學の方法あれば其理に決して不變の者
と云ふも不可あかるべし

數學は一にエキザット、サイエンスとも云ふエキザットとは精密の義にして事物の
道理を精密にとるの學問を云ふ義あり即ち一切の學問之を數學上に照して極め行か
ば其道理を精密に明証とるを得て其基礎を確むると尙ほ大盤石其物の如く確平とし
て抜けざる者と爲すあり一例を舉げて之を云へば諸君が日々刊行の新聞紙上見る所
の天氣豫報の如き若くは昨年八月十九日の日蝕の如き或は今年の曆中日月の蝕ある

三
を示せしが如き何れも皆數學上より測定せし結果にして其理の在る所は何れとして
及ばざるあり又計り知られざるはあし即ち數學の効は其廣きと吾人の測り知るべか
らざる程の者にして天氣豫報に在りては暴風暴雨の何日に在る可しと都べて農業者
に航海者に之を利し日蝕若くは月蝕に在りては人民無智の妄を解かじめ、之を利用
すると多ければ多きに從ひて利の及ばず事廣大にして彼の磐梯山變災の如き若くは
畝傍艦の覆没の如きも或は之を免れ得たるやも計られず惜い哉事爰に及ばずして其
難を免れしむるを得ざりし事をハ
斯くの如く數學は之れを用ふるに從ひて其功著るしき者とされは之を利用し得る丈
け利用して其利を収む可きは抑も吾人が學問に對して深く究むる所以の者されば之
を棄て、顧みざる者こそ愚の極りされ迂の至りされ苟くも取りて以て用ふ可きは之
を用ひて可なり何んの遠慮會釋をか之れ爲さんや夫れ人は病の器にして病の人を器

まするといふ古來の俚諺あれども實は吾人の不養生にして身体の健康に注意せざる甚
 だしき者あり是れ畢竟吾人が衛生を重んじ其教に依らざるの致す所ありといふ云へ亦
 實に數學の力を假りて以て利用せざるに依らずんばあらず即ち人の病も數學の力を
 以て之を測定し得可く既に病あらば之を治療するを得可し數學は容易に其病の有無
 健康の如何を知らしめて以て吾人の不養生を戒め又吾人に其衛生の重んず可きを教
 べて吾人の身を保護する者あり然らば即ち數學は寧ろ吾人身体の保護者にして如か
 も有力の者と云ふも決して不可あかる可し

右の如く數學は吾人の身体までも保護し得る徳力ある者とすれば之を利用す可きは
 勿論之を棄て、顧みざるこそ迂の極ありと云ふべし諸數學は如何ある手段に依りて
 吾人を保護し又吾人を測定するやと云ふに其方法を假稱して人身の測定とは云ふあ
 り人身の測定とは數學上の原則を應用して出來たる器械に依りて人身一般の形体を

審査し之を醫學に當符め以て吾人の身体保護の役を司る者あり而して二歩を進め測
 定の功用を擧ぐれば之を二つに分けざるべからず一は一個人の進歩二は一國の
 進歩を現はそ是あり

先づ第一の一個人に付て之を云へば右の測定に依りて其人の身体は尋常の發達を爲
 し居るや否や其健康は如何、力量の度は如何、視力は如何、肺臓の呼吸力は如何、果し
 て事業に堪へ得るや如何、等凡ら一個人体の發達に對して一切の觀察を爲し得る者
 あれば其足らざる所、惡き所、弱き所は之を補ひ之を改め之を強むるの術を講し而し
 て其足れる所は益々之を足し又強き所は愈々之を強め善きは益々之を善からしむる
 とを得可し即ち測定の方に依りて始めて其講究の路を得る者とするれば若し測定ある
 者なきに於ては弱き所之を強からしむる能はず惡き所之を善からしむる能はず足ら
 ざる所之を補ふこと能はずして弱は益々弱、惡きは愈々惡く、不足は愈よ不足にして

終らんのみ否夫れが爲め他に害を及ばし強きものも善きものも又足れる者も或は轉じて弱となり悪しく爲り又足らざる事と爲る可し是れ即ち測定の人身に欠く可からざる所以にして又保護者ありと云ふ所以あり次ぎに第二の國の進歩より之を云へば國は即ち一個人の集合体にして人々個々の弱と強との如何に依りて集合体ある國の強弱如何に關係せざるべからず何とあれば國は一個人の集合より成れる者よして取も直さず人は國を爲その一大要素あればあり一大要素よして其身体弱からんか國如何に強からんと欲すと雖も得可けんや之に反して一大要素の實に強しとせんか國焉んぞ弱からんと欲するも豈弱きを得んや即ち測定は一個人の爲めに實に必要にして又國の爲めにも實に必要ある者と云ふ可し

翻つて吾國封建時代の有様を見れば武を重んずるの風習熾んにして士は常に弓馬槍劍を事とし農工商は何れも夜を日に繼で粒々は是れ辛苦一に体力に依りて其業を營む

の本色あるが故に其身体の強健あるは勿論ある可し之を再言すれば智識の發達少くして腕方の強壯是れ貴ぶ社會あれば腦髓の使用少く体育上の發達最も速ありし之に反し今日の社會の智育主にして体育之が従とあり實際上常に腦髓のみを苦しめ腕力は之に伴はざるの有様あるより一般に人の健康上に傷害を與へ病者羸弱日に益々多く天折天年を了へざる者月に益々多きを加ふるの傾きあしとせず左れば此時に際して醫家衛生家は勿論の事尋常の人々に至る迄も能く衛生に注意して之が健康を傷害せざる様汲々たる可きは勿論の次第ある可し故に今日は体育の發達を促す可きは固よりの事にして政府も人民も共に其注意を怠らざる所あれど其体育の注意と云へるの重もに各學校の書生輩に留まり未だ吾人一般に對して其注意を施すに及ばざれば吾人の之に注意を促すは又止むを得ざるに出るあり

嘗て明治十七年の事ありしが英國倫敦に於て開設されし万国衛生博覽會の節ドクト

ル、ゴルトン氏は人身測定所を該會中よ設け見物に來りたる者は何人を問はず些少の手續料にて之が測定を爲せしよ之を請ふ者九千三百卅七人あり内男子四千七百廿六名女子二千六百五十七名其他は小兒ありしが其比較を前五年の統計に求むれば総て幾分の進歩を來したりと云ふ此事たる蓋し測定は一個人の健康不健康を見るに留まらず一國の健康不健康までも測り得る程の大切ある者あれば日本今日の健康如何を測り得て而して其患ふ可きものを排除するは一に測定其者にあるを知るべきあり其大切なる測定を謂れあて棄て置くは實に理由なきの甚しきものあり是れ即ち大日本通俗衛生會が今度人身測定の器械を神田區連雀町十八番地に据え附け本會の會員たる古川榮三輪徳寛の両醫學士を主任とあし會員諸君は勿論諸君の父母兄弟姊妹を始め汎く江湖の需めに應じ病を豫防し國民の進歩を計り以て一朝事あるに際して彼の曆法なき國民が突然日蝕に遭遇せし如き周章狼狽して開明人の笑を招く勿らしめんとを期する所以あり諸君請ふ此意を了し來て其健体を測定し苟も疾病の徴候あるを知らば速に醫師の指圖を受け其健康を保持せられんとを

宗教未派の惡僧は衛生上の妨碍物あり

會員 鈴木萬次郎 演説

諸君よ今爰に一組の小學生ありとせんか數十の兒童の其中には或は伶俐發明にして一を聞くも十を知り能く教師の教に隨ひ孜孜勉強して少しも怠りなく未頼母教兒童もあらん或は不敏頑愚にして十を教ふるも漸く一を覺え今日學びて明日忘るの兒童もあらん或は何を言ふても忽ちメツ〜と泣顔をする兒童もあらん或は腕白横着にして父母の學校通ひを勸むるも少しも聽入れず晝のボツタラ焼の腰掛に晝食を忘れ或は犬の喧嘩に加勢を爲し夕には子守女の背中に密柑の皮を挿み一ツの拳固を貰が如き惡戯をのみ好み最早内へハ置けあいや明日より學校へ通へと云ふ阿爺の最後の談判を受けて是非なく學校に來るや教師が呼べとも之に應へず教ゆれども之を學ばず指を嚙へ鼻汁をたらし其休業時間とある時は第一番に遊歩場に先陣して出で稽古時間とある時には其教場へ殿して入り聲もなく言詞もなく茫然として口を開き眼は天井の節空の邊に注ぎ足は隣に座する兒童の脚上に乗せんとするか如き腕白横着の

專賣特許と云ふべき困り子僧もあらん古語に曰く人心の同じのらざるの猶其面の如
 じと又古の諺に曰く十人寄れば十色ありと夫れ箇様に一組の小學兒童も神童あ
 り頑童あり椀白子僧あり泣味増坊主あり如何に其教師は職掌なり義務ありと云ふと
 も信切温良懇篤ある人に非ざる以上は「善に随ひ惡の爲すべからず牛の荷物を遠き
 に運ひ人を乗する者あり牛肉は身体からだの滋養やしあひにある者あり藥は苦がけれども病に利あ
 り」等の事柄を一々此種々ある兒童に對し一様に覺えしむることを得んや
 されば世の父母たる者は其子の教師に向て深く謝せざるを得ざるべし但し教師の職
 は生徒に對して之に禮儀を教へ文字を教へ又種々の事柄乃ち牛は荷を遠きに運ぶと
 か良藥は口に苦きも病に利ありとか善に隨ひ惡はあすべからずとか等の事を教ゆる
 の固よりの譯にして必ず左もあるべき筈あり教師も自ら之を以て勉とせらるゝあら
 ん
 然る今又茲に一人の教師ありて生徒に教へて曰く牛の荷を運ぶ者に非ず人を突き殺
 す者あり又牛肉は滋養物に非ず却て身体を衰弱せしむる者あり藥は口に甘くして病

に毒ある者ありと又曰く人は決して勉強すべからず父母の言ふことば聽くべからず
 親爺が囁し々言へば家を飛出して乞食もあるべし昔も太閤豊臣秀吉の父母の言を聽
 か次家を出て乞食となり三州矢矧川の橋の上に臥して峰須賀小六に出會ひ終に出
 世して關白となりたれりなりと又曰く人の學問より釣を爲すべし昔も太公望呂尚は
 涓涓の邊に釣して周の文王に出會し師父と云はれて尊まれしことありと箇様の事を
 以て數多の兒童を學校に教へたらんよの如何ん其父母たる者や誰か憤然として其教
 師方を怒らざる者あらん必ず校長と談して其教師の免職を乞ひ或は自ら其兒童を退
 校せしめて再び學校に足踏をもあらしめざらん或は其怒り乘じて終に其教師の頭
 上に拳固を進上するに至る者もあるべし
 斯く其父母の其教師に對して怒る者は何故や人を教ゆるの職もありて實に不相當
 の事を教ゆるのみならず却て之を惡き道に導き以て其子の一生を誤らしめ或は遂に
 其命を失ふに至らしむるの害あればあり左りあるが箇様の教師の申すことばも強
 ち百が百まで皆不相當の事のみにも非ざるべし成程昔も太閤様の父母の教に隨ふと

と云く盜賊の仲間に入りて遂は關白にありて相違なし太公望は釣を垂れて周の文王に尊敬せられたるは相違なし又牛肉も今日の開明に生れながら見ても胸が悪くあると云ふ程のみに食ひしめば滋養どころか却て是か爲めに病を起さやも計り難し又牛の荷物を運ばず人を突き殺すの場合なきにも非ず又藥にも甘き者もあらん又藥が毒とあることもあるべきを以てありシテ見れば諸君は此教師の申す所を以て御最とあし之に尊敬を加へて我子を待み月謝を納めて其教師は依頼せらるゝや世間廣く雖も狂人白痴に非ざる以上は誰か之を尊敬し之に月謝を納むるものあらんや諸君も御承知の如く世の中の事柄は大抵相場のある者にして十人の中九人までか喰て旨ひと云ふる牡丹餅は二入茲に不美しと云ふとも先づ旨ひと相違なし又出精したる者の千人の中まで九百九十九人まで勉強を積み艱難を重ねたりしと云ふの其中の一人が遊んで居る由世にたりと云ふとも先づ出精あし度しとすれば勉強せざるべからず又牛が十匹の中まで其一匹の牛が人を突き殺したりして其九千九百九十九匹が荷物を運び人を乗せしと云ふは牛を人を乗せ荷物を運ぶ者と教ふるを至當の

とありとす左れば前の教師の如く教へたれば縦令幾分の道理ありとも斷然之を廢せざるべからざるありと云ふは、左の左りながら余熟々世間の有様を見るよ前の如き途方途轍もなき教師に向て深く之を謝し且つ深く之を尊敬して月謝を納め有難涙は咽びながら斯く馬鹿々々敷間違千万の教授を受くるに齊しき者は尙續々として澤山あるは何ぞや實に奇怪千万の事と云ふべし余の左に其然る所以を述べん、抑も此浮世の果して何如ある處ぞや是亦一の小學校あり此校内には伶俐發明にして能く物事を知る者もあらん或は何程教へ導くとも譯の分らぬ困り者もあらん或は頑固ある爺様もあらん或はガリガリ然たる婆様もあらん此種々様々の人を集めて善い爲すべし悪はあすべからず父母よの孝養すべし主人にの忠義に勤むべし朋友には信を以て交はり兄弟にの睦く暮し自分の業を勵みて幸福の土藏を築くべし勉強の鍵を

持て盛運の門を開くべし濡手て粟を攪み寐て居て金儲けの出來る者は非ず不養生を極めて長命は望むべからず畑は出で、蛤は拾ひ難し木に縁て魚の求むべからず一生

の安樂は斯くの次第より生じ一生の苦痛の斯くの始末より起らんと或は論じ或は叱り或は教へ或は導き以て其人々に對する教師ありツハ誰ぞ乃ち今日の宗教家非ずや

然るも此浮世の學校に立ちし教師乃ち宗教家にして或は浮世の生徒に教へて曰く醫者の人を救ふ者非ず匙を以て盛り殺す者なり藥の病に大毒ある者あり病の爲めには御みたらしこそ第一あり藥を飲むとあれば此御水は遣すべからず云々と若し箇様の事を申たらんよ此の前に述べし無法の小學教師か牛は人を殺す者あり藥の病よ大毒ある者あり云々と教ゆるも同様諸君は之を御尤と御思召すや何んと悪く坊主でいありませんの又得意然として説て曰く豊臣屋の秀吉は養生も何にもせぬか能く御籠をして拜みしが爲め大層長生をしたり又太公屋の望太郎は常に河邊にありて埃離をとりし信心者でありし爲め病氣も本復して西伯屋の文公も吃驚したりタカラ醫者は益に立つ者に非ず療治の無法の極點と申すべし何んでも信心が一番あり云々と是れも亦恰度夫の小學の無法教師が豊臣秀吉の橋の上に寐てより出世せしを以

て出世を望まんとならん程の上は臥すべし太公望の釣を爲して文王に出遇ひ出世したるを以て學問よりは釣すべしと教ゆるも同様あり如何にも信仰の成り難き始末ならずや然るに此浮世學校の生徒中特に分らずやの階級にある人は嗚呼難有や難有や南無阿彌陀佛南無妙法蓮華經と異口同音に之を唱へて頻りに之を尊敬し此教師に月謝否此惡坊主に御冥加錢を納め滅多矢鱈之を尊敬し奉り或は醫士の藥を廢して腐敗したる水あがを飲み以て二ツともあき生命を縮むるの何んと諸君實に驚き入りたる次第あらざるや

然し私に敢て世間の信心者を指して愚ありと云ふに非ず又之れに惡しきを以て御止めあさいと云ふも非ず否信心の甚だ結構のことある世の人々の宜しく之を爲すべしと云ふの賛が者ありされども信心して心を惑わし教を受けて愚とあり狂とあり輕き病は重くおし長き命の短くする等のことあれば速よ之を止むべしと申さねばありません

元來宗教は前にも述べし如く惡を去て善よ導き惑を解きて正よ歸せしめ其人を安全

に導くを以て趣意とする者あれば決して宗教の悪しき者に非ざるハ勿論諸君に於ても千萬御承知の所あり只た之ヲ對して惡むべきハ乃ち夫の宗教の末派にありて之を奇貨とするの惡僧ならずや

但し私の所謂宗教末派と稱する者ハ或ハ其當を得ざるや否やを知らざれども今日も有りて申せば何々觀世音何々地藏何々大師何々大權現何法地佛何々講何々不動等の類是れあり又其本派と稱する者ハ東西本願寺を始め諸他の寺院本山を云ふ者よして宗旨よて申さば禪宗淨土眞言天台等を云ふあるべし是等の各派は少しく其説く所を異にし或ハ釋迦を以て本尊とし或ハ阿陀彌如來を以て本尊とすの異なる所もあるべけれを概して之を申せば佛法の開祖乃ち釋迦の教を去ること遠からず又其各派の中ハ品行不正の僧もあるべれども概して之を云へば末派の坊様より多きことハあらざるべし

元來世の中の御利口連が阿彌陀様の誠に難有き御方あり如來様の罰ハ恐ろしき者ありヤレ南無阿彌陀佛ソレ妙法蓮華經と無暗矢麯に有難がる次第は誠に怪しからぬことあり抑も彌陀との如來との申す者ハ何如ある者あるや蓋し才能ある僧が釋迦の教を説きて之を導かんとせしも何分も馬鹿馬鹿の人民あれば言語計りにてハ容易ハ信用せざることを發明し何か現在の佛様とか本尊様とか云へる土臺を作りたる者と私は考ふるあり夫の神前にある小間犬の頭も宜しくと云へる如きヒカヒカ然たる縮髮に彫りし人形の別段難有き仕合はわらざるべし箇様の人形は何方にもあり或は大道の夜見世ハ突立ち或は古道具屋の棚とされる者あり左れば寧ろ易有きと云ふも難有しとの云ふべからず

但し私の難有き者と申すハ此木や金の人形にあらざる釋迦の説かれたる經文是れあり此經文ハ五大州中何に擔き歩きても随分難有かるべし何も釋迦の体が難有きにあらず只今にても印度地方に參れば毛髮の縮れたる人の幾干にてもあるあり況や縮髮の人形よ於てをや釋迦も人間あれば我等も人間あり別段難有き譯に非ざれども唯其經文の教が難有きと其釋迦の行爲の中々難有きあり曾て世人の言ふ所をきくハ釋迦の死去せしときハ鳥獸昆虫に至るまで皆其傍に集りて其死を悲みしと云へることあり

れども平田篤胤の話によればこれに非ず或る時釋迦は一人の弟子を随へ山中を歩行せしとき如何にも空腹となりしが別に食物も無く幸ひ其林の邊に葶の生せしを見て之を食ひ其飢を凌かんとせしに何ろ圖らん其葶に非常の大毒ありて釋迦は忽ち其毒の中り七顛八倒終に此場は往生せしも弟子坊主の何如とも詮術なく早く之を他の弟子坊主に知らせるより致方もなしとて是非なく其釋迦の死骸を其儘に置き遠くも山を下りしよ何を云ふにも印度の熱帯地方釋迦の死骸の忽ち腐敗し臭氣紛々四方に散りしを以て其邊の鳥獸昆虫の善き飢食こそござんあれとて乃ち其死体の傍に集りたるあり云々と是れ餘り惡口に過ぐる様もあれば私に之を信せず私はドコマデも釋迦を以て結構ある經文を致へし難有き人物と思へり何卒世の佛に志し佛を信心する人よ於ても其釋迦の教を聴き其教の道を難有がるべし一枚の掛物一ツの人形を以て之に百拜千拜し惡しき坊主の虚八百を固し教に隨がふべからざるあり私はこれより進んで我邦未派の地尊とか權現とか觀音とか云へる者の成り立ちを申し述べんに恐らく左の三點より出來たるあらん乃ち修身經濟及び衛生是れあり

第一修身 とハ斯く斯くの事をすれば此觀音様の罰が當るが此權現様はアラ尊にあれば人の見ぬ所も能く之を見透し玉への左様の事をすれば直に罰を蒙るべし彼の某の箇様の事を致し終に罰は當りて往生したるを見よ故に惡しき事は決して爲す間敷き事ありと説法するの類是あり但し惡き事は必ずからずとのみ教へての中々承知せざれば亦之に反對して善き事をすれば此觀音様は實に其人を助け玉ふべし此本尊様はアラ尊よあれば直に幸福を賜るべし彼の某は能く信心する善人にて有しより佛の御救助を受けて箇様はありたりと所謂勸善懲惡の比論を以て説法するか如きは全く修身の道と申すべし而して之を教ふるにも何よか一ツ目當がなくてのあらぬとの考へより朝鮮婦人の出來そこあるとも云ふべき人形を作りて之の觀音様あり御眞体の決して見るへあらず之を見れぬ直に眼が潰れ盲人とあらんと實に御眞体は決して見るへからざるの見ることも出來ざる以上は鱈の頭よても鳥の糞にても亦秘藏の御眞体あらん○私の近頃聞く所に依るに淺草の觀音及び信州善光寺の御本尊は米あらんとのことあり何ぞと申すも抑も我國に始めて米の渡來りし時には其長さ一寸八分

ありしと然るに淺草觀世音信州善光寺の御眞体も矢張り一寸八分あればあり況して其御定紋は万字乃ち卅あり之を解剖とさひ十一とあり之を集むれば米とあるをやと是或は然らん彼の神前に御初穂を上げると云ふもつまり我が國の人は米で命を繋ぐゆゑ米より尊きものわらし其米を拜み其米の子孫ある初の稻穂を捧ぐるものあらんか然るも神よでも佛よでも漸次は錢金を上げ今日にてハ札を上くるに至りたることをかしけれ

第二經濟 余の深く經濟の事を知らざれども世の中の總ての物用は立つべきを立てず置きより不經濟の事はあかるべし中にハ用は立て、後惡くある者あれども反之用に立つればたつるほど益す善くあるものありソハ何ぞ土地是あり諸君も御ぢんじの通り昔日は今日と違ひ新田開發等も盛あらず従て荒野も多かりしあらん別て信州あづみの多ありし依て之を良田畑とするには人をして之に赴かしめ又之に住居しむるか肝要ありソコテ夫の山奥は善光寺ちう滅法尊とせ御寺を建て四方の信者をして之に赴らしめ爺婆の躰線金を以て暗に之を開拓の費用に充てたるあらん是れ實に國家

の一大經濟と申すべし又木曾の山中は澤山の良き材木あるハ諸君の知る所ありされど山嶮くして之を切り出すハ困難ありソコテ山の絶頂に一の社を設立て之を木曾權現とか御嶽山とか名けたり而して夫から夫へと御利益の効能を布言散すこと千金丹方能膏も宜しくと云ふ有様あるより近郷遠國の老若男女は万人必當の一大取除無盡を取るの意氣込にて我もくと參詣し一ツの文久に無病長命を祈り三ツのビダ錢に榮華繁昌子孫長久を願ふ等の輩引きも切らず上下せし其足跡の何時しかに付きて立派の道とあり良き材木を切り出す便宜とありしも經濟の又是一端と申すべし其他川を埋めて大道とあそびに八幡宮を安置し並木を倒して市町とするに觀世音を建立するの類は皆經濟便宜の點より出てたるものあらん

第三衛生 總て神社佛閣等は市街繁華の不潔雜踏ある地は設けあるハ極て稀にして多くの市外ある林の中とか山の上とか兎角は不便利の處に設けし者あり夫れ故世の信心者或は爺様婆様も孫や子供の手を引て遠く往き或ハ坂を昇らざるを得ず左すれば自然身体の運動とあり不知々々強壯とあるか爲あり今左に運動の大切なる事を述

昔し支那に橐駝と云へる者あり樹を植る事至て上手あり一日或人が橐駝の許へ参り橐駝さん御前さんの植た樹の枯れたいのみか他の樹より葉も青々とおい繁り花も一層美しく其實も常に大い何んでも良き秘法にても有あらん何卒教くだされと申せしは橐駝の云ふに何よ秘法も傳法も有りへせん只た私ハ樹の性質に従て植るのです全体御ふんじの通り樹の性質の静者てあり升は世間の人の樹を植て枯れへせぬのと爪をもて其皮をへき或は又其幹や根を動かすを皆樹の性に悖ゆい其枯るころ無理ならず外に秘法へございませんと橐駝か話とを或人が聞て實にもと両手を拍ち謝禮を述て歸りしとぞ

扱て吾々人間の果して何物ぞ動物中の上位を占る乃ち動中の最も動性質を備居ものあり然るよ若し動く性質の人間を動かさざる時は何如ん丁度動かぬ性質の樹を動かすと同様身体の日々に弱くあり遂は枯死するよ至るべし是れ實に人よハ運動の必要ある所以にして市外山上に神社佛閣の設けあるも恐くハ此運動を助成る爲あらん

良や又人の住家の近邊は神社佛閣あるにもせよ其十中か七八の周圍は種々の樹木を植てみ常に鬱叢たる者あり左ればはや見よ花咲春の三月にハ花見かてらの参詣も出かくる人も多かるべし蒸さるゝ如き夏の日よも緑陰深き處にて蟬の鳴音を奏樂よ午暉の夢を結もあるべし光陰みちかき秋の日にも二月の花より紅ある紅葉緑葉の斑ある錦の森を見んものと杖ひく人も又あるべし夫れ是の如く春にもあれ秋にもあれ人々樹木多き所に往くハ大に身体に益ある者よして彼の花に目を喜ばし冷風に肌を快らしむる如き些少ある利益にのみ止まらず別よ最も大なる利益ありソハ何ぞ空氣の清潔善良ある是あり夫れ人間と獸類とを問はず動物の居る所の空氣ハ炭酸と云へる不潔の氣を混し草木ある所の空氣は清潔あること諸君の能く知る所あり今一二の比例を擧て空氣の善惡の人身ハ大關係あることを申せハ彼の芝居よ往きて終日土間に居る人を見よ十人中か四五人の必と頭痛を起すの或ハ氣分悪かるべし特に婦人の尚さらあり是れ或ハ笑ひ或ハ泣く等も少しハ關係すべけれども重に衆人雜居より空氣不潔とあり爲よ頭痛を起し不快を感するもの也又何人よても一日間で飯を食

ずとて死する者のあらざれども誰か一時間鼻と口とを塞ぎ呼吸を止めて空気を吸はざるときに死せざる者はあらざるべし又昨日迄米飯を食いし人々今朝より麥の多く交りし飯を食いしとて頭痛不快を感じざる者は非ざるべけれど純良の空気を吸ひ居し人として交りある空気を一日吸ふ時は忍ち不快を覺ゆること芝居に居る時の如し左れば人の身体よの飲食物の大切なる事勿論あれども亦空気の大切なることは之も劣らぬ者あれば人々宜く滋養の食物を擇むと同しく清潔の空気を擇まざるべからざるあり

今や西洋諸國の都府繁華の地よ於ては必らず處々に公園地の設あり貴賤上下の差別なく業を止め職を終るや皆此公園に散步せりと是れ善良なる空気を吸はんを欲するは他をらず

故に我國よ於て神社佛閣の山上或は林中に設け有るも一は衛生上の點より出でたるものと考ふるも決して無理ならぬ事あるべし左れを茲に一の怪むべきは我が東京に於て近來頻に建立する所の神社佛閣の重なる繁華雜踏の地あり甚しき牢屋跡に

設くる者あり是れ商賣主義より出でたるの或は地代の安直あるか爲か余の了解する能はざるあり

シハ閣を何に致せ以上述たる三點より末社末寺の起りし次第あれば實に結構ある者への相違をけれども當今其末派の非常に増加したると從つて末派中よ惡僧惡神官か増加して之か爲に衛生上よ妨害をなすよの實は捨置難き次第あり抑も當今末派に惡僧惡神官等の非常な増加したるの如何ある故を尋るに先づ其初は逆て之を考へざるべしと思ふに往時よ在りては今日の如く到處にヤレ不動様ソレ觀音様とてありしに非ずして漸く彼所の村此所の町に一二ある位ありしが不便の土地の參詣人や道の里遠き信仰者や或は不信心とあるを恐れ或は御手輕信心を望みて此方へも御眞体を移し彼所へも御出張所を設けたること七八年前よ教育普及を謀りて各小村に至る迄小學校を設けたると一般あり左れば從つて神主とか御宮守とか云へる人もできるの必定あり此神主とか御宮守とか云へる者も御同様の人間あれば面白き事も仕たし旨い物も喰たし從つて御養錢も余計に欲し、然るよ甚た不都合には人よ

りて或は不動様或は地藏様と各其信仰を異にし一ツの不動様のみまては地藏信心者
 の參詣せず爲めは御米櫃は關係を生ずるより西側には地藏東側には觀音其隣は
 稻荷若くは大黒天と恰も小間物屋の如く八百屋の如く荒物屋の如く一社内は八百
 万の神や佛の共進會を開き數多の寢錢箱を配置したり故に自然寢錢も多分より上り身
 體ハ樂あり誠ハ結構ある商法あり然るに苦少ふして樂多きを望み人情の常あれば日
 を追て志願者の増加せり世間お利口連の多きこそ幸此所彼所に種々様々ある神佛混
 合共進會を開きたり特に明治の年代に至りてハ文明とは云へどナマケ者と馬鹿者と
 の増加を來し少苦多樂主義と取除無盡主義と益す進歩せし其結果ハ未派と惡僧等と
 の増加を致したる者あり夫れ物多ければ價少きは經濟上の定理あり數多ければ屑
 も亦從て多きハ天地間の通則あり思ふ様に金もこれと隨て貧乏となり隨て食ふこ
 とも叶わず爲めは幸ひも世の無智阿爺や馬鹿婆を擱へ途方途轍もなき虚喝を並べ
 て或ハ腐れ水を賣り或ハ藥を指圖し以て自ら糊口せんとする者あり豈も不都合千万
 の事ならずや然るは此坊主等も向て虚八百の教を受くるの生徒となり月謝否御冥加

を投じてヤレ難有しヤレ難有しとは夫れ亦何如なる始末やこれも唯馬鹿位の事に
 て濟むとあれば固より私は彼此申さざれども或は此坊様の爲めに終り二ツともなき
 生命を失ふの恐れなきも非ず否世間には隨分これあるやと聞きしことあり是れ余が
 衛生上の一大妨碍として長くもこれに喋々せし所以あり今此満場の諸君の固より箇
 様ある惡坊主に惑さるゝの人も非ず何卒此浮世の學校にありて眞正の教師も就き身
 を養ひ心を信にし十分の御卒業あり度こそ偏に私の希望する所あり

婦人の衛生の事務官あり
 會員 堀口昇 演説

今日の演説は婦人の衛生事務官たることを説き明すも在り試に見られよ地球上何れ
 の邦國にても立法權と行政權の區別あらざるのあり尤も野蠻未開の邦國まては一人
 の專政者ありて立法行政の二權を併有し一人にして二者を兼行すること有りど雖ど
 も斯くの如き邦國に於てすら既に其二者は名稱を異にし且其の之を有する者の資格
 を異にせざるはるし而して社會の漸く進歩して開明の域に達するや之を割き之を分
 ちて二權を獨立のものとし名實共に對立せしむるを常とす然ども立法權ハ行政權

の完全ある運動を爲すを俟て始めて其好果を結び行政權も亦立法者の善良あるに至りて始めて其効驗を見るものあり行政者の行爲善良ありと雖も立法官にして其人を得るに非ざれば社會の改良進歩を見る能はず又立法官も其人を得ると雖も行政部の事務官にして其人を得るに非ざれば亦善政美治を望むべからき今日余の論する所は婦人を以て衛生の事務官と爲し假令衛生の立法官たる醫學士が如何なる善良の衛生規則を設立すると雖も之を實地に施行すべき事務官即ち婦人にして巧に此規則を實施する能はずんば毫も其好果を見るを得ざるべし例へば正宗の名刀ありと雖も巧に之を使用するの人無くんば名刀も何ぞ鈍刀も異あらんや衛生の事たる各人の務むべき所にして男女の差よ由りて區別のあるべき由縁あかるべし然るに婦人を以て衛生事務官と爲し専ら之に衛生の責任を負はして男子の之に注目するを要せざるか如く論するの何ぞやとの質問を起し余の演説を難する者あらんも知るべからず故に一言茲に辨じ置ざるを得ず余は決して男子に衛生の事を顧慮するに及ばず獨り婦人のみ之が責任に當るべしと云ふは非ず衛生の事たる實は各人の均しく注意を要する所ありと雖も其官吏たる農商工たるに論あく男子は各其家業を修むるに繁劇あるを以て婦人の如く衛生に多分の時間と注意とを與ふるを得ず且夫れ衛生の主眼たる飲食の世話衣服の洗濯家屋の掃除の如き皆是れ平常婦人の司掌する所にして男子の此等に注意するの餘暇を有せず或は時として晝飯のお菜は何晚餐の下物は何と家内よ命じ豫め指揮を爲すとありと雖も一年三百六十日の間男子が食物の世話を焼き衣服の差圖を爲し家内の掃除を指揮するに到底爲し得べからざるとよして常に婦人の管理に歸する所あり然らば即ち衛生の事たる男女を問はず各人各個の宜しく注意すべきものあれども男子の常に家業と外交とに追ひれ繁劇にして充分の注意を之に加ふること能はず而して婦人の之に充分の時間と注意とを與ふるの餘暇を有し且元來衛生事務の性質たる婦人の専ら責任に歸すべきものたるは亦疑ふべからざる事實はあらずや

余の衛生學の如何に進歩して其完全を極むるに至るも之が事務官たる婦人にして巧に之を實行するに非ざれば其美果を見るべからざることを述べ次で婦人の事務官たる

る所以を説きたれば是より進んで衛生の事務官たる婦人に向て希望するの諸點を細ま
 開陳とべし
 第一婦人の一家の膳部に供すべき食品の良否を鑑定し滋養分に富みたる物品を選ぶ
 とを知らざるべからず吾人の食物を喫するは徒に胃腸を膨脹せしむるが爲め非ら
 ず晝夜吾人の身体は各部とも夫れ々々運動して生活の妙用を顯はすか故も或は体温
 を失し或は水分を蒸發し骨肉膜共に幾分の損傷を蒙ふるに由り吾人は食物を喫し
 其中に含める有要の元素即滋養分を取り以て其損傷を補足せざるべからず然るも衛
 生に暗き婦人は自分の好む南瓜、薩摩芋、蒟蒻の如き最も滋養分乏しき物品を以て
 日毎朝夕の常食とあし之を腹一杯に詰込むを以て身体を補養し得たりと考ふれども
 是れが尤も過あり若し夫れ此の如き無識の衛生事務官も一家の衛生を司らむ
 んか家族を擧て孱弱無氣力の寄合とあらしむるは決して遠きに非ざるあり凡そ滋養
 品饒ある食物ハ 獸肉、鳥肉、牛乳、鶏卵等の類をれども人の身体に要する食品ハ只上
 に列擧する如き蛋白質を含めるもの、みに非らず米麥豆類野菜等の如き澱粉質も富

める者も亦た必要あれば強ち前者の如き食物のみを三食とも喰ふべしと云ふも非
 ず只前後の二者を巧み雜ぜ合せて食ふとを要するあり第二ハ此等の食品を取雜せ家
 人をして之を食せしむるに當り調理の方法を巧にし味は甘く消化は善く愉快に之を
 食せしむるを要す元來食物を調理するは徒に其外見を飾るが爲めに非らず食物の消
 化を速よし且つ之を食ふ者をして愉快の感覺を惹起しむるを目的とするあり一個の
 物品までも之を調理する方法は様々あり例へば府下々流社會の常食とする所の彼
 の鱈の如き之を鹽焼と爲すべく煮附と爲すべく又「メタ」と爲すべく酢附と爲すべく
 酢入の汁と爲すべく又摺身と爲すべく然るに庖厨を預る婦人よして怠惰性を極め調
 理に注意するとなく今日も鹽焼明日も亦鹽焼と云ふが如く毎日一樣の料理法にて之
 を食せしむる時の俗に云ふ鼻に附き再び之を食ふの念慮なきに至らしむべし其他何
 品に限らず調理の適當を得るを得ざるもの之を食する者をして愉快あらしむると厭
 惡せしむるもの差を生ずるものあれば是れ亦婦人の注意を加ふべき所あり第三ハ食
 事を爲すの時刻を計るにありとあるか我邦にてハ大概朝飯ハ六七時の間は在り晝の

十二時の「ドン」を相隣に御膳を据え夜の亦七八時の間を以て食事を爲すの習慣にして貴賤上下の中に行はれ宛ら政府が法律を以て規定したるが如き定規あれば別は此項に就きては余の喋々たるを要せざるあり然ども只茲に一言すべきは痛く胃腹を空虚にし或の非常に劇しき勤勞を爲したる後直は飽食するを不可とすれば衛生の事務官たる婦人は宜しく注意すべし第四の食物の分量のとあるが前にも云へる如く凡そ吾人の食を求むるは徒に胃腸を膨脹せしむるが爲めに非らず寔は之に由りて身軀に必要なる榮養分を取らんと欲するが爲めれば食ひ足らざるも害あれば亦た過分は食ふも害あるあり故に身軀は必要の養分を含める食物を過不及なき様適宜に之を食するを善とて食事の総て婦人の給事に由るものあれば宜しく茲に注目あれさて次に余の衛生事務官たる御婦人に希望するは男子を誘引して運動を爲さしむること是あり一般に我日本人は運動不足にして体育充分ならず特に彼の書生と稱する者の如きの晝夜書物に眼を曝らし脚指の聲を絶す其勉強は實は實は賞賛すべしと雖ども其運動と云ふは僅に學校へ往復するの途上は於て親讓の膝栗毛に騎するか或の其下宿屋の下

女に戯れ廊下を「バツ」騒ぎ廻る位のとにして体育充分ならざるが爲めは學成り功積みて「イヤ」是れより社會に立つて事業を行はんとするは當りて心身共に多病とあり快々として樂まず醫師の立關は百度參りを爲すもの往々皆是あり或人の曰く獨逸の書生の勇壯活潑にして其卓上を見れば書物の側にボールの徳利あり又其側にハタシの呼出狀を載せ然るは我邦の書生の孱弱無氣力なり其卓上を見るに書物の外の藥櫃と戒名とあるのみと此言過激に失するも雖ども能く兩國書生の状態を寫せるの評と云ふべし抑も一國の元氣とも稱すべき書生にして其狀既に此の如し况や其他の人種をや運動体育兩者がら不充分にして常は腹胃の病症に罹り或は病んで立たざるもの或の非命に死するもの年々歳々其幾万人あるを知るべからざるあり豈歎ずべきもの至るらずや試みよ彼の外國人の行狀を見られは彼等は毎日夕食を終るの後舞踏を試み正突の遊戯を爲し然らざれば夫婦手を携て市街を遊歩し或の小兒を連れて公園を逍遙し清良の空氣を呼吸しあがら身軀を揺動し必ず二時間若くは三時間の運動を努むるを以て身軀自から強壯にして醫藥に依頼する者少く頗る健全あり然るは我日

本人には夜食後特に運動を爲すもの多く一杯機嫌にて「コロコロ」不れて臥睡するを常とせり故に我邦は於て腹胃の疾病に罹るもの多く夜食は在りと云ふ是れ夜食したる食物の未だ胃腸に在りて消化し去らざるに早く既に臥睡して消化の機能を停止するが故に性質の善良ならざる食物の一夜の中に腐敗を來し胃腸を傷害するに由るものあり先年流行したる悪疫患者の病源に深く注意を加へ具さよ之れを取調べたる名醫諸君の説を聞くに其患者の過半は夜食したる物品の腐敗より發病したりと聞き及べり豈謹まざるべけんや而して毎日夜食後の運動を規則正しく爲さしめんよは矢張り婦人の力に據るを肝要とす若し夫れ婦人よして食後良人の手を執て舞ひ或は市街を散步し縁日を素見せんとを勸めん良人先生如何は日中の職務の爲めは身体憊れ精神衰ふと雖も何條共同行を辭すべけんや是れ余の保証する所あり婦人の衛生の事務官よ非ずや何ぞ厚く此邊は注意し男子の病根たる食後直に寝よ就くの弊風を矯め其健全を謀りて以て偕老同穴の契を全ふせざるべけんや

余は尙身体の清潔家屋の掃除起臥の時間等に就き申し述べべきとあれども時間に限

あるを以て是にて此の演説を終るべし

脚氣病養生の心得

會員 江馬春熙 演説

諸君よ夫の悪魔の將軍万病の隊長所謂虎列刺病の何方へ攻撃に出掛けしにや我日本も恐らく今年に其攻撃を受くあらんと思ひました先づ無事にて一向に其患を生ずるの模様も見にざるに衛生上の太平之に過ぎたる次第のあかるべし就ては諸君が兼て御承知の脚氣病も中々の悪物にして毎年夏秋の頃とあれば必ず其頭を出すことが常例の如き譯とあり今日も於ても之に悩む之は死する人は蓋し幾許の數あるや脚氣病が唯劇しく傳染するの性なきを以て餘り人の喧しく騒ぎ立つることあしと雖もコレラの偶々侵入して我々人民様を悩し奉つるとい其害容易に輕重し難き所あり依て今日は脚氣病養生の心得と云へる演説を以て暫く諸君に御話致すべし爰に脚氣の來由を尋ぬるに支那にも脚氣と云へる病あり曾て支那の嶺南地方より江東地方に蔓延せし者にして唐の天寶年中は王勣と云へる者が始めて脚氣論の三字を以て其書の篇名に附せしより遂に一般の通稱となりしと云ふ又印度にペリペリーと云へる病

あり丁度我日本の脚氣と同様の姿と申すことあり故に西洋人の尙我日本の脚氣を以てハハリーと唱ふる者あり我日本に始めて此脚氣の起りしは蓋し何れの時代あるや詳かに知れされども脚氣と云へる病の名稱の紫式部の源氏物語清少納言の枕草紙其他續詞花集東鑑等の古書に載せたるを見れば必ず源平以前の時代に於て既に之を發したるあらん併し昔日に於て脚氣と申すことは餘り多く聞しこともあけれの今日の如く此病の澤山にありしは實に近年に始まりしあらん

扱此脚氣病が何故に昔には少くして今日に多くなりしや杯の理屈は醫學の議論に涉るを以て暫く爰に見合せと致し唯其毎年夏秋の頃に至りて之に死し之に惱まざるは者如何ある人物に多きやを尋ぬるに諸君も御承知の如く大抵十七八歳より三十歳内外の少壯ある男子に多き病と申すべし此少壯の男子諸君の學問なり官事あり商業あり工業あり其志す所の目的を定めて天晴之は達し大は國家の爲めに報ひ小は我一身の名譽を求むる國に取ての大切ある人物にして或は學問を以て之れより天下の大學士とあり或は軍事を長して大將軍とあり或は政事に長して天下の議事堂

よ上座を占め或は經濟に長して天下を利し或は非常の發明を遂げて天下を益する種類の人物もあらん又我日本を以て今日東洋の英國否尙之に超過すべしとは我日本の如何ある人物に依頼して斯く申すべき事なるや第一此少壯ある男子諸君は依頼するの外は恐らく多く他は是非ざるべし此少壯活潑有爲の男子諸君にして毎年脚氣病の爲めに悩まされ或は之は斃されて其志を果すこと多く空しく地下の鬼を化せんか實は其人の不幸のみならず我日本を取ての一大不幸を申すべきあり

扱此脚氣病の西洋諸國は絶へてなく今日に於ては恰も我日本は固有する一種の悪症にして只今も申したるが如く特に少壯の男子諸君は多き者あり近頃まで素人の御説にイヤ脚氣病は水薬にて治ることなきとか西洋醫の脚氣の療治を知らぬとか申されしことありと聞けり成程今日までの一定の療治法と申す者あじされば又漢法風の療治法を吟味するに我日本にては昔し丹波康賴梶原性全等の人物ありて夫の唐の王焘の説は隨ひ之を論せし等も始まりしと云ふ而して今日の療治法を如何と尋ぬれば先づ鹽氣を絶ちて米を禁じ其食物に唯麥と赤豆とを與へ下劑を以て其の身体を

疲らしむるの類あり脚氣の療治は之れにて満足と申すべきや私はなは甚だ不満足と云わ
 ん故ゆゑ今日こんにち醫士社會いししゃくかいに於て脚氣の議論は未だ止まずいよよ其眞理を發明せんとて
 種々研究の最中あり然るに或る醫師は是迄何千人とかの脚氣病を療治すれども死亡
 は一人もあしと主張して世間に廣告し或の脚氣の死病に非すと斷言したる者ありし
 との聞けり成程脚氣とて無茶苦茶むちやくくちや人を殺す譯わけの非ざれども何千人療治しても
 死したる者あしとて今後こんごも必死することあしと申すべきや鳥渡足の先きに麻痺を覺
 ゆるか或の少々の水氣ある位の脚氣のみ療治することあれば何千人の脅か何万人の
 脚氣を扱ふとも死去することあかるべし若し劇しく脚氣を起して今いまも危き容体の
 者のみ何千人も参りたる時ときの如何いかや又脚氣の死病に非すと斷言せし者あるの如何
 ある理屈のある事あるや夫の御ご知の感胃位は死病に非ざるべしされども此感胃
 を引きたる上にて或は夜中裸体はだかにて眠り或は風雨を侵すが如き不養生の上うへも不養
 生を極むる事あれば其感胃のいよいよ劇しく終つひの熱病に變じ或は肺の病杯を起し
 て死去するに至ることもあらん必ず死病しびょうに非すと申すべきや誠まことに唯今の處ところにては尙

脚氣の療治方も種々様々にして或は鹽を斷ち米を禁じ麥赤豆のみを食すべしと云へ
 る醫士もあれば又牛肉の食すべし少々のブドウ酒の宜し成る丈滋養物を用ゆべしと
 云へる醫師もありて今尙爰に一定する所なく其醫士其醫士の了簡次第と申す譯わけあれ
 ば私わたくしが是より脚氣の養生ようじやうに就て諸君の御心得迄ごこころは御話し致すも唯私が一己の考へ
 ん由る所ところにして或は他の醫士の養生法とは反對の處もあらんかされども私は是迄澤
 山の脚氣病者を取扱ひ其養生法を實地に施して自ら誤りなき者と信しんずる所ところあり其
 御積りごつみにて尙暫く御聽き取を願ふ所あり
 爰に脚氣病に就ての養生法を申し述べんに此病に罹りたる時は先づ足を休めて無理
 ある歩行等ほこうとうに決して爲し玉たまのざるべし昔むかより脚氣は常に居坐の姿を以て土を踏ふま
 ざるより起る者あれば既足はだしとありて土地を踏むべしとか或の運動すべしとの申さる
 る人もあれども是れ甚だ害あり土を踏まざるより起ると云へいん巡査兵士の如き人に
 は決して起らざるの道理あるに亦常に是等の人にも多き者あり又椅子杯いすのすべに罹る時
 成る丈臺の類を設けて足の垂れざる様ように注意あるべし足を垂るれは自然と血の下る

所より重みを足に覺へ或は水氣等を増と者あり又食物は先づ是迄の通り麥或は赤豆の類を用ゆるも宜し但し此二品より限らざるべし或は他の淡泊なる品を用ゆるも害あり或は此麥と赤豆との二品を以て飽まで脚氣の療治法と思ふの人もあれども妄りに之を食すれば亦却て害あり此間も或る脚氣病人ありて脚氣は赤豆の宜しきとの事を聞き傳へ赤豆を煮て砂糖を加へ何んでも之を以て治せんと考より澤山一度之を食せしに恰も下等餓頭の餓同様の者あれば忽ち留飲を起して俄に心下に苦みを覺へ最早忽ち衝心せし者ありと大騒動を生ぜしに夫の御承知の沸騰散にて速に一時快氣を覺へし者あり故に麥にても赤豆にても必も多量に食すべからず胸の張りて苦みあるとき或は嘔吐を催す等の時ハ特に御注意ありたり或は此場合ハ於てハ斷然食物を廢し自然と食氣の起るまでは氷の類を除くの外食せざる方却て宜しき者あり又食麵包ハ夫の麥を以て製したる者にして其質輕く下宿屋等に寄留して麥飯の手續に困まるゝ等の人の之を其代りに輕く用ゆべし却て麥飯よりも胃袋に入りて程の能き者あり又鹽氣ハ曾て大に之を脚氣ハ禁せし者あれども輕く鹽氣を用ゆるは餘り害を見

ざるのみならず身体の疲勞を豫防する所あり或ハ脚氣ハ懼りて食の進むことありされども此時ハ於て餘り多量に食すべからず必も其後ハ至て害を見ることあり又夫の歌の文句ハ兎角浮世の色と酒とが申を如く人間最上の樂ハ色と酒との二ツハ在らんあれども脚氣の中は必ず之を禁じ玉ふべし實ハ酒の爲めには忍ち衝心して斃れたる者多し夫の脚氣の衝心と申して俄ハ胸を進撃せられ昨日迄ハ病氣ながらもオララ消光せし者が今日ハ既ハ如何とも至し方なく最早冥土ハ轉籍とる人のあるハ諸君も兼て御承知の事あらん又諸君が脚氣病を以て常に恐るべき惡症と看認めらるゝも此俄かの衝心と申すことあるに由るべし但し脚氣とて亦無茶苦茶に衝心する者に非ず斯く俄ハ進撃せられて死去とる者あるが如きは決して特リ脚氣の罪のみに歸すべからず是れ全く自分の不養生乃ち脚氣の病中に於て非常に無理ある運動をなすの或ハ特ハ酒を飲む等のことより起る者あり實ハ脚氣の養生ハ於てハ酒は禁物ハあき様ハ思ふ所あり又色は大に動氣ハ關係し又呼吸ハ關係すること特に大なるを以て脚氣の胸に進撃するを容易よする者あり是も酒に次げる第二の禁物を致すべし又入湯も

大ひは動氣は關係致し或ひは夫の眩暈等を起こすの恐れあれば先づ見合せを致すべし
 但し暑中のことにて長く入湯をしに其はた困難あり故に沐浴をするに湯坪の内
 よ入ることなく外にて洗ひ或は夫の行水の類にて汗を流す等に止まれ大抵其害な
 し又動氣の強き時を決して身体を動かすことなく靜に褥上よ臥し氷を以て其部を冷
 やすべし大ひに効能あり又此脚氣の時節に時候に當りて他の熱氣ある等の病を受
 けざる様に注意すべし脚氣の之が爲めに大ひは増進することあり或は少しも脚氣の
 氣味なき人に於ても此時候に侵されたるが爲めに續て脚氣に罹る者あるの私が往々
 見る處あり又身体の疲れたる時の牛乳ソップ鵝卵魚肉等の淡泊ある滋養物を以て勿
 論其身体を補ふべし私が世間の脚氣病者を見るに病の始めて起りし頃も養生とて麥
 飯のみを用ひ病の末に至て身体の疲れたる時に至るも尙養生とて麥飯或は赤豆の類
 のみを用ゆる人あるか如し此仕方にては身体を補ふの道なきを以て却て其全快を延
 引すべし故に病の末に至て身体の疲れたる時之を補ふ滋養物の勿論欠くべからざ
 る者あり

扱右は申し述べたる所の脚氣病養生の一斑あり何卒實地に御採用ありたし恐らくは
 誤りあるらん就ては此養生に就て尙一ツの申上度ことあり乃ち夫の轉地療法是れあ
 り成る程脚氣の起る時に當て土地を換ゆるは至極結構又之が爲め治する人もあれ
 は決して非難の出來難き法あれども此東京に歸れば亦忍ち脚氣を發することあるを
 如何にあすべきや最も暑中休暇の際にて少年諸氏が歸省兼脚氣養生と申す様のこと
 あれば強ち其人は妨げもあかるべしと云へ人として用のなき者があるまじ此用事
 を持ちながら唯脚氣の養生にて永く土地を換へ住むことを得べきや仙人か樂隱居か
 或は此世に望みなき人物あれば格別一の甚だ氣の揉める次第あらん故に脚氣の爲め
 よ土地を換へしとて脚氣の始まる四五月頃より脚氣の終りの十一月頃迄引續きて轉
 居する人のあるまじ僅に一二週間の轉地にて又々歸京をすることゝあれば實に其効も
 少なき譯あらん又此轉地法も鳥渡脚氣の始まりし時よ於て速に治ることあれば至極
 結構あれども既に其病の胸よ迫りて非常な苦しみ場合とありては如何あるべきや道
 中の熱さと人力車の動搖等よて却て二層其病勢を悪くし之が爲め終よは死去する

ことあしとも申し難し誠は困り入りたる次第ならずや故に私の考へよ土地を換へて再び東京に來らざる人よは轉地は至極頂上の法あれども常に此東京に望を屬し或は爰に永住すべき人に於て毎年脚氣に罹り其度毎よ土地を換へ去りて治し來りては發し發しては去り去ては亦來る等の事をあして常に脚氣の爲めは彼處此處往復の苦勞のみを取るよりも寧ろ此地の脚氣ある處よ住して務めて攝生を嚴よし治療を盡し追々と其毒氣に習慣する様よ致して如何にや東京出生の人が各地方寄留の人より常よ脚氣よ罹ることの少なき比例を見れは東京人の生れながら其毒氣よ習慣する所あるよ由らんか尤も夫の脚氣の爲めは腰の抜けたるとの衝心して死するとかの人の多くは病の第一發に在りて通例第二發第三發と毎年よ引續くとさし近々と其病の薄らぎ輕くある者に似たり或は偶々脚氣の第一發よ輕くして第二發第三發よ却て重き者もあれどもこれ一に其脚氣を輕蔑しイヤ又例の脚氣あるかと一向之を心よ留めず其養生を怠る等によ由る者多きか如し此脚氣の毒に感ずるや例之は夫の酒を飲むと同様の譯にして是迄酒よ習慣せざる人が唯猪口に一杯の酒も始めて之を飲みしとき

は非常よ酩酊して苦しきこと限りあけれども段々酒の場處を重ねれば中々容易に酔わざるに至るか如く脚氣の毒よ慣れざる人は始めは強く之に感ずるも段々其地よ慣るよは隨て終に之に感ずることなきよ至るべし故に私は轉地も至極結構あれども何卒轉地の手数をくして大抵あれば此脚氣の治する様に致し度否大抵は治する様に思ふ所あり平生此脚氣のみ轉地轉地と申すことあれども虎列刺を避くるにも轉地に宜し肺病も暖氣の方よ轉地するに宜し病の轉地よ宜しき者も其他にも尙澤山ある所にして強ち脚氣のみよあらざるべし

今又爰に鳥渡脚氣の危險ある者と安心ある者との容体を御話し致さんよ水氣あるとて危険と云ふに非ず水氣あしとて安心と申すべからず又麻痺の多少を以て判斷するに足らず動氣の摸樣と胸の苦みの何如よ由て尤も之を判斷すべし又脚氣の精神の體ある所を以て判斷すべからず脚氣病者の精神は死に至るまでも確かある者あり但し御承知の如く手足の麻痺よ由て身軀自由あらず其困難實よ察すべし夫の物の譬へにも兵を用ゆること手足の如しとの人を使ふこと手足の如きと申すことあり今此の

手足は麻痺を起して自由の理否不自由の理屈とありては如何も中央の精神か思ふ様
は其體を働かせんとしても中々以て六ヶ敷尙之を無理にも使わんとするが爲めに
手足の麻痺不自由の益々甚だしく終には上へ衝心して斃るゝに至ることあり實に攝
養と治療との大切なる者にてありまじやうや

明治二十一年九月十四日印刷
明治二十一年九月十七日出版御届

非賣品

編輯人兼發行人

岐阜縣士族

江馬春熙

神田區三河町二丁目
七番地寄留

東京府平民

堀口昇

神田區中猿樂町
十七番地

印刷人

手足は麻痺を起して自由の理否不自由の理屈とありては如何に中央の精神か思ふ様
よ其體を働かせんとしても中々以て六ヶ敷尙之を無理も使わんとするが爲めに
手足の麻痺不自由の益々甚だしく終には上へ衝心して斃るゝに至ることあり實に攝
養と治療との大切ある者にてありまじやうぞ

明治二十一年九月十四日印刷
明治二十一年九月十七日出版御届

非賣品

岐阜縣士族

編輯人兼發行人

江馬春熙

神田區三河町一丁目
七番地寄留

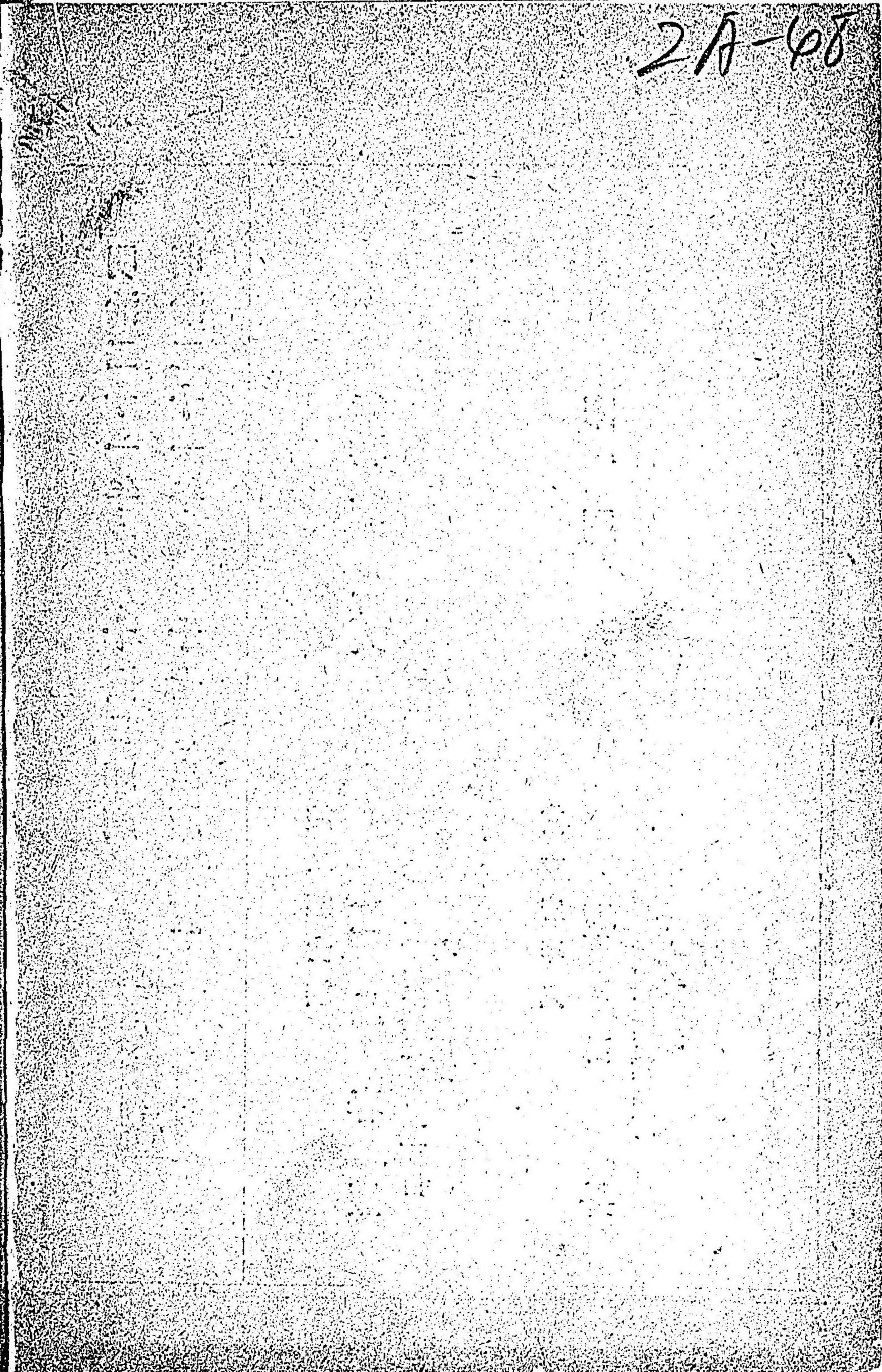
東京府平民

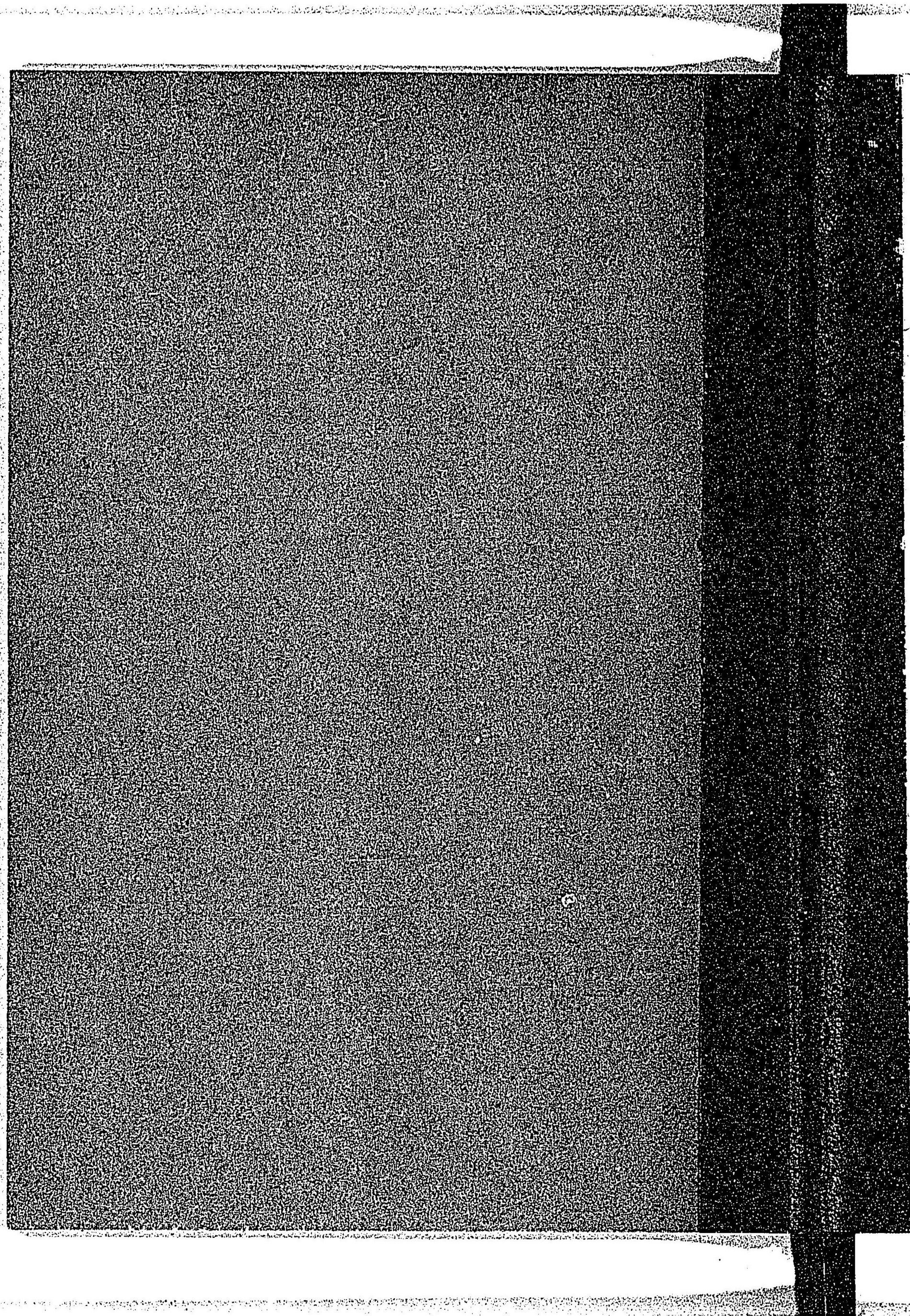
印刷人

堀口昇

神田區中猿樂町
十七番地

2A-48





4
1

通俗衛生講演集

大日本通俗衛生会

国立国会図書館

060672-000-1

特24-131

通俗衛生演説集

大日本通俗衛生会

M21

CBM-0543



特

1

